

藤田喬平の芸術

The Glass Art of Kyohei FUJITA

「現代」としての伝統 "Contemporary" Tradition

2015年11月21日[土]→2016年1月31日[日]



藤田喬平《銅盤「醜闘」》2003年 富山市ガラス美術館蔵 写真=斎城卓

展覧会情報

展覧会名	藤田喬平の芸術—「現代」としての伝統
会期	2015年11月21日(土)～2016年1月31日(日)
会場	富山市ガラス美術館3階 展示室3
開場時間	午前9時30分から午後6時(金・土曜日は午後8時まで、入場は閉場の30分前まで)
閉場日	毎週水曜日 年末年始(12月29日～1月3日) 閉場日が祝日の場合、祝日の翌日
観覧料	一般/800円(600円) 大学生/600円(400円) ※小中高生未就学児無料 [「ハワード・ベン・トレ: Casting of Being—存在の痕跡」との共通観覧券] 一般/1,300円(1,100円) 大学生/1,100円 ※()は前売り、団体料金
前売りチケット取扱い	[「ハワード・ベン・トレ: Casting of Being—存在の痕跡」との共通観覧券](一般のみ) アーツナビ Tel 076-432-3113 アスネットカウンター Tel 076-445-5511 TOYAMAキラリ総合案内(1F) ※本展覧会観覧券で常設展もご覧いただけます。
主催	富山市ガラス美術館
監修	武田厚(美術評論家・多摩美術大学客員教授)

展覧会概要

藤田喬平(1921-2004)は、日本を代表する現代ガラス作家です。藤田は東京に生まれ、1940年に東京美術学校(現東京藝術大学)工芸科に入り彫金を学びます。卒業後は岩田工芸硝子に入社しますが、間もなく独立し、ガラス作家としての道に進みます。1964年に「流動ガラス」シリーズを発表し、ガラス作家としての地位を固めました。1973年に日本の伝統的美意識の枢要をその装飾や形態の中で体現した「飾筥(かざりばこ)」、1977年にはベネチア(イタリア)でカンナ技法を用いて制作した「ヴェニス」といった、作家を代表するシリーズを生み出し、後にはユニークな主題の巨大なオブジェ制作にも取り組みます。国内外に活動の幅を広げ、高く評価を受けてきた作家は、制作活動と共に後進の育成や日本のガラスを国外へ紹介する活動にも勤めてきました。こうした作家の優れた業績に対して1997年には文化功労者、2002年には文化勲章を受けます。本展覧会は、初期から最晩年に至るまでの作品約60点を展示することによって、あらためて藤田のガラス芸術の魅力とその独自の表現世界を見直そうとするものです。

作者プロフィール

1921年東京生まれ、1944年東京美術学校工芸科彫金部卒業。1946年に真赤土工芸会に参加(1956年退会)。1947年に岩田工芸硝子に入社し、硝子を扱う技術を学ぶ(1949年に退社し独立)。1957年に上野松坂屋にて初の個展を開催した後、「飾筥(かざりばこ)」や「ヴェニス」といった代表的なシリーズ、「オブジェ」の作品群を個展の中で発表する。1991年からは富山ガラス造形研究所の顧問を勤めた(2004年まで)。藤田の作品は、東京国立近代美術館をはじめ、エベルトフトガラス美術館(デンマーク)、コーニングガラス美術館(アメリカ)、パリ装飾芸術美術館(フランス)、ヴィクトリア&アルバート博物館(イギリス)など、国内外の美術館に収蔵されている。2004年に逝去。

出品作品について

画像1~8を広報用に提供いたします。

ご希望の方は以下をご確認の上、美術館へ画像使用をお申込みください。

<使用条件>

※広報用画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを必ずご表示ください。

※トリミングはご遠慮ください。

※キャプション等の文字が画像にかぶらないよう、レイアウトにご配慮ください。

※作品情報等の確認のため、お手数ですが校正用原稿を美術館へお送りください。

※アーカイブのため、後日掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

各シリーズ解説 流動ガラス

1964年、藤田喬平は第4回個展に《虹彩》(東京国立近代美術館蔵)を発表する。この作品は溶けた状態のガラスの流れ落ちる特質を利用して制作された実験的作品で、その瞬時の難しい決断の連続によって成形された大作である。その出来栄えについて作者自身も納得し、初期の代表作として位置づけされてきた。藤田はこの種の作品に「流動ガラス」という呼称を与え、67年頃までしばしば制作された。この度「虹彩」は出品されないが、同時代の流動ガラスが出品されている。



藤田喬平《流動花瓶》1964年 個人蔵



藤田喬平《花瓶「火の踊」》1970年 東京国立近代美術館蔵

飾篭 (かざりばこ)

「飾篭・菖蒲」が発表されたのは1973年の第13回個展においてである。以来「飾篭」シリーズは藤田喬平の代表作として評価され、海外での国際展や個展などを通してその人気と評価がさらに広がっていった。作品は、箱というガラスの立体空間に、日本の美術・文学・文化をイメージした色彩が散りばめられ、日本の伝統美が現代的に表現された作品といえる。飾篭には、「光琳」、「紅白梅」など、「琳派」を意識した作品も数多く制作された。海外で飾篭の用途を聞かれた藤田が、「夢を入れなさい」と答えたことから、海外では「フジタのドリームボックス」という名称としても親しまれた。



藤田喬平《飾篭「日・月」》1999年 富山市ガラス美術館 写真=斎城卓



藤田喬平《飾篭「竹取物語」》2000年 富山市ガラス美術館 写真=斎城卓

ヴェニス花瓶

イタリアのヴェニス、ムラーノ島の工房において制作を始めたのは1977年からである。ガラスのメッカ、ヴェニス=ヴェネチアでの藤田喬平の挑戦であった。イタリア美術の歴史的風土の中で自身の新たな感性を発見し、それを磨いていった。本シリーズでは、「カンナ」と呼ばれるヴェネチアの伝統的装飾様式とその技法が用いられているが、藤田自身、その文様と形体を独自にデザインし、フジタ・スタイルと云える新しいヴェニス花瓶を数多く作った。ガラスの島、ムラーノ島の今の職人たちの伝統の技が日本人フジタの感性を見事に伝えた作品である。



藤田喬平《ヴェニス花瓶》1997年 個人蔵



藤田喬平《ヴェニス花瓶》2000年 富山市ガラス美術館

オブジェ

ヴェニスでの制作で、装飾的な花瓶の他に彫刻的なオブジェが加わったのが1983年で、その翌年の第25回記念個展で「風」や「創生」などが発表されている。既に50歳を超えての再びの挑戦であった。それは工芸というジャンルを明らかに超える領域での造形であり表現である。藤田喬平は、オブジェの制作によって、それまでとは違った藤田喬平を敢えて引き出し、純粹に造形作家としての”自由”を伸び伸びと駆使させていたのである。巨大リングに見る愛らしさと麗しさがそれを語っている。



藤田喬平《昇る太陽》2001年 個人蔵



藤田喬平《實》1994年 富山市ガラス美術館蔵

関連イベント

記念講演会・対談

2015年11月21日(土) 14:00～15:30

14:00～14:45 [講演会] 「世界のフジタと作品の魅力」

講師: 武田 厚 (美術評論家・多摩美術大学客員教授)

14:45～15:30 [対 談] 「人間・藤田喬平を語る」

講師: 藤田 潤 (ガラス作家・日本ガラス工芸協会理事長) + 武田 厚

会 場 = レクチャールーム (富山市ガラス美術館6F)

料 金 = 無料 (ただし、入場には本展の半券をご提示ください)

定 員 = 各回60名 (先着順)

学芸員によるギャラリートーク

2015年11月28日(土)、12月12日(土)、26日(土)、2016年1月9日(土)、23日(土)

各日午後2時より開催

会 場 = 展示室3 (富山市ガラス美術館3F)

料 金 = 無料 (ただし、入場には本展または共通券の半券をご提示ください)

※開催日時は都合により変更する場合があります。詳しくは美術館HPをご覧ください。

出版刊行物紹介

展覧会カタログ『藤田喬平の芸術—「現代」としての伝統』が刊行されます。

『藤田喬平の芸術—「現代」としての伝統』

仕 様 = A4変形 W220mm×H290mm

頁 数 = 98ページ(カラー56ページ)

定 価 = 1,900円(税込)

発 行 = 富山市ガラス美術館

発売日 = 2015年11月21日